



浅香 衣世 あさか倶楽部

"Curious Georgeみたい"

米国シカゴ勤務時代に、私についてボスから言われたこと。 "Curious George"の邦題は『おさるのジョージ』。

私は北米で1985年から1995年までの10年間を過ごし、 2001年のエンロン問題でなくなってしまったアーサー・ア ンダーセンという国際会計事務所(シカゴ事務所)で7年間勤 務した。当時シニアパートナーであったボスは、何にでも興 味を持って突進(?)する私に、笑いながらそう言っていた。 "Curiously kills a cat (過剰な好奇心は危険)" というので 気を付けろとも。彼からはいろいろ学んだが、"Much truth in jest (冗談の中に真実あり。人が冗談めいてさらっという ことを聞き流すな)"も時折思い出す。

現在に至るまで、私はやってみたいことがいつも多く、新 しい人・ものとの出会いがあるとワクワク。他人に「こうあ るべき」は通用しない。ムッとすることもあったり、相手は そんなつもりではなかったり、価値観は面白いものだと思う。

日本帰国後のさまざまな仕事で北米、ヨーロッパ、アジア 諸国へ行き、最近はサンパウロやベンガルールも経験した。 土地、文化、宗教、政治が背景にあっての生活、その国での 人々の拠り所、本質論に触れ、そんなときは日本について考 えさせられる。

米国企業勤務時、ヨーロッパ、アジア各国との国際会議で、 「日本の商慣習、日本で売れるために」を理解してもらうのは 一苦労。今後は企業国籍もボーダレス化。デジタルの武器も 取り入れコミュニケーションを駆使したい。

最後に、子どものころは「サザエさん」と言われた。おっ ちょこちょいな私は、何かとやらかして、母が「すみません、 この子、サザエさんみたいなのでしと謝り、笑いをとってい た。ちなみに母はサザエさん好きだった。暑苦しい環境にい てもどこか涼しげだからと、「スナフキンみたい」と私に言っ た人もいて、それは結構気に入っている。



アーサー・アンダーセン、シカゴ事務所勤務時代、ボスの Clyde Dickey氏とミシガン湖畔にて。背景はシカゴのダウ ンタウン



日本コカ・コーラ勤務時代に烏龍茶"煌"の仕事で訪れた福 建省九曲渓の川下り。朱熹の詩が岩肌に赤字で見える